女工哀史（岡山紡績所）

二

八月十日、高梁に到着した。翌日再会に臨んで、職工の代表者八名を選出し、職工代表者八名を選出し、職工代表者八名を選出した。

（以下略）

二、新工場の完成と解雇

深川木材共同社宇委員会の旗の下に

(四三) 工場の兄弟諸氏、ストライキに入る！

俺達労働者は永い間資本家の、又々かし言葉に惑はされて極度の下に生活さつづいて来たが、今春以来の生産制限により、小工場はばたばた倒れ休業は何処迄も続き俺達木材労働者は大振の尻つぼ切るやうにと、ばつ〳〵馘首された　今後もどん〳〵首切りとしてゐるのだ　而して、その際工場閉鎖反対！、首切り無事だ！、勤続手当をよこせ！、と迫れば、俺達のやうな小資本家を余りいじめて呉れるな、俺もお前らと変りないのだ」と俺達のひもふ資本を踏みにからうとするのだ　奴等は俺達を安い賃銀で十時間も十二時間もこき使ひ仕事のたりん病気になつたり傷をした場合にもしっ之の手当も出さず請負制度にして安い夕ゝ賃で骨までしやぶらうとする吸血鬼だ　ごまかされてたまるものか！　労働者と資本家はどこ迄も仇同様だ

御愛的に叩きつぶさなければならない敵だ　(四三)の兄弟達も奴等のために二回許りの安い賃銀で牛馬のやうにこき使ひ　七月三日から七月廿日まで賃上げ請負制度にするからと言ひ　今日まで迄を撤廃しやうとしないのだ　その場合いうだ

工場主とグルになつて職長は八日午後三時今やつてゐる仕事をやはり今日までのやうに請負制度でなければ解散だ　解雇手当は十四日分だと従業員に言渡した

(四三)の兄弟たちは断固解散反対！、請負制度反対！、と叫んで立上つた　今までの怨み